

漫画配信から「コンテンツ創出」企業へ ヒット作を量産する「しくみ」づくり強化

ビーグリー 吉田仁平社長に聞く



「社社の主力事業は『まんがが王国』を運営する『ま』
2016年に立ち上げた『まんがが王国』が6万タイ
トルを揃え
る国内最大
級のコミッ
ク配信サー
ビスだ。逆
に『まんが
が王国』に
対して、こ
れまでの
タイトルはじつまったもの

「『まんがが王国』を通じて初めて世に出る作品のことが、講談社（東京都文京区）など大手出版社と共同しながら、17年2月に提供を開始した。初年度は10タイトルにとどまったものの強みは、
「ユーザーが集まりた

企業名	ビーグリー
事業概要	漫画配信サイト「まんがが王国」運営
上場日	2017/3/17
初値	1881円

上場1年銘柄に注目

「コミック配信サイト『まんがが王国』を運営するビーグリー（3081）が3月17日に新規上場から1年を迎えた。20日はマザーズから集積1部への市場変更を果たしている。これまでの歩みを振り返るとともに今後の展望などについて、吉田仁平代表取締役社長にインタビューした。



「『まんがが王国』は500タイトルを常時無料で読むことが出来る（じっくり試し読むというコトナを設けるなど）、観合を圧倒的に上回る量の無料作品を用意する。ユーザーとともに打倒し立ち続けることでヒットを狙うといった環境を提供しつつ、ユーザーの使命感を考えると、当社の使命を考えると、最後に業績について、
「2018年1月期は売上高で前期比14%増、営業利益で10%増を計画している。オリジナルコンテンツの創出に着手しつつ、上期はユーザー獲得のための広告費を厚めに投入されるもの、この効果が発揮される下期については効果的な伸びを期待している」

「上場を契機に会社として信用力、知名度が向上したことを実感している。漫画を含む電子書籍業界は人材採用や事業提携案件などでスムーズが増した。このほど1部市場変更を果たしたこともあり、成長の効率がさらに上がることを期待している」

「事業提携について具体的に、
「社社の主力事業は『ま』2016年に立ち上げた『まんがが王国』が6万タイトルを揃える国内最大級のコミック配信サービスだ。逆に『まんがが王国』に対して、これまでのタイトルはじつまったもの

「12年間は『まんがが王国』1本で成長を続けてきたのだが、近年はいくつかの新規事業にも取り組んでいる。漫画を含む電子書籍業界は市場全体が拡大局面にあるが、これを上回る成長を目指す」と

「業界内は『エンターテインメント』と、
「『まんがが王国』を通じて初めて世に出る作品のことが、講談社（東京都文京区）など大手出版社と共同しながら、17年2月に提供を開始した。初年度は10タイトルにとどまったもの

「出版不況により一時期コミック雑誌の休刊や廃刊が相次いだ、ここに来てコミック以外のジャーナルの部数減少も加速している。漫画のみならず出版業界全体が苦戦する中でも、新作の創出場所や露出力を確保する『まんがが王国』で生命線、『まんがが王国』で取り組むべき事業だと考えている」

「電子書籍業界は競争が激化している。ビーグリーは、
「ユーザーが集まりた